令和６年度　第３回　生駒市子ども・子育て会議　会議録要旨

日　　時	令和６年１１月１日（金）　午後２時３０分～
場　　所	生駒市コミュニティセンター　４０２，４０３会議室
出 席 委 員	清水会長、三木(美)副会長、岩本委員、山田委員、畠山委員、谷猪委員、 城野委員、辻中委員、末松委員、今川委員、石田委員、溝口委員、 吉田田委員
事 務 局	吉村子育て健康部長、岡村子育て健康部次長、松田教育部次長 子育て支援総合センター　若狭所長 こ　ど　も　政　策　課　澤辺主幹、土井田係員、竹田係員 幼 保 こ ど も 園 課　大畑課長、春野主幹、澤野係長 こども園準備室　小林室長 児　童　総　務　課　武元課長 健　　康　　課　渋谷課長 男女共同参画プラザ　福山所長 教　育　指　導　課　花山課長 生　涯　学　習　課　井川課長
会議の公開	公開
傍　聴　者	４名

１．開会

２．案件

(1)　第２期子ども・子育て支援事業計画の進捗について（令和５年度）（答申）

(2)　生駒市こども計画について

(3)　生駒市こども計画策定に係るパブリック・コメントの実施について

(4)　その他

(1)　第２期子ども・子育て支援事業計画の進捗について（令和５年度）（答申）

会長

第２期子ども・子育て支援事業計画の進捗については、実績の確認等を皆さまから一任いただいた。お手元の最終版をもって答申とする。

(2)　生駒市こども計画について

①　第１章　こども計画の概要
　　第２章　こども・若者や子育て家庭を取り巻く現状と課題
　　第３章　こども計画の基本的な方針

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。特にキーメッセージと基本理念については９月に開催したワーキングで活発にご議論いただいた。

委員

キーメッセージ「ワタシはありのままで大丈夫。オトナはそれでも大丈夫？」について、ワーキングで出た委員の意見「こどもは大丈夫　おとなは大丈夫か」と微妙に違うように思う。「ワタシ」が「こども」を指しているかがわかりづらい。また、「それでも」が、こどもがありのままでいても大丈夫か、と聞いているように受け取れる。こどもを取り巻く課題は多いが、こども側に課題があるのではなく、大人側に課題があることを明確にする必要があると思う。例えば不登校の問題を考えた際に、不登校は問題とされるが、こどもが悪いのではなく、大人や社会に問題があると考えられる。大人が学び直しや、対話を重ねることで課題を解決していこう、というメッセージであるべきではないか。もう少し捻るか、以前のワーキングで出た委員の意見のようなシンプルなものに戻した方が伝わりやすいと思う。

会長

第２章に多くの課題が記載されているが、第３章で「ありのままで大丈夫」となると、課題はそのままで大丈夫、と受け止められる可能性があるのではないか。第２章の終わりに説明を追加するとよいだろう。

事務局

キーメッセージについては、資料４でさまざまなご意見、ご提案をいただいている。当初はこどもからのメッセージとして、大人に刺さるようなものになればよいとの思いから、「ワタシ」としたが、委員の意見を踏まえて決めていただければ、事務局として異存はない。

委員

ワーキングで出た委員の意見に戻す方が、シンプルなので真意が伝わりやすいように思う。「それでも」は何か前提があるように感じてしまう。当初は、キーメッセージだけですべてを表そうとしていたが、基本理念でMission、Vision、Valueといった文言も追加いただいたので、わかりやすくなった。

委員

資料１の５ページの４.計画の対象について、対象をこども・若者・子育て当事者としているが、全ての大人も対象だと思うので、含めるべきだと思う。

委員

キーメッセージについて、ワーキングでは、「こどもがありのままで大丈夫」であれば、例えば親がネグレクトをしていても大丈夫、子育てに手を抜いても大丈夫、と解釈される恐れがあるという意見もあった。これについては、保育の現場からの懸念と認識しており、この場で改めてご意見を共有いただきたい。

委員

私も「それでも」という表現には違和感がある。キーメッセージは本当に必要だろうか。基本理念も示されているので、なくても伝わるように思う。「こどもは大丈夫」というのは時間が経つとそんなに気にならなくなっている。それよりも「それでも」が気になる。この少数の委員の中でも２名の方が「それでも」に違和感を持たれているのに、市民がみるとどれくらい多くの方が違和感を覚えるだろうか。保育所の視点からの意見としては、こどもは周囲の影響を受けながらも、自分の力で大きくなるので「ワタシはありのままで大丈夫」でもよいが、大人の部分については再考が必要だと思う。

会長

委員の意見を踏まえ、事務局において再検討いただきたい。その後、私の方で事務局案を確認の上、パブリックコメントの手続きに入る。

② 第４章　施策の展開　基本目標１　こどもの権利が尊重されるまち

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。また、取組に対するアイデアがあればお願いしたい。

委員

施策１の大人対象の事業について、なるべく強制的にでも参加するような仕組みづくりが必要ではないか。子育て当事者は学校の授業参観の時などに実施すれば参加できるかもしれないが、子育て当事者以外の大人の参加は難しい。全ての大人がこどもについて考えることが大事だということを前面に出す必要がある。大人の学びをどう実施していけばよいだろうか。

委員

地域やこどものことを考えたい気持ちはあるが、それを休みの日に考えるのは疲れるし、報酬もない中で実施するのは損と感じる人もいるかもしれない。そうなると、おもしろい意見は出てこない。大人も楽しめる、ワクワクするような仕掛けが必要ではないか。コロナ前に『クルマザイコマ』というイベントを実施していた。チラシのビジュアルを工夫したら、楽しそう、ハードルが低そうと思われたようで多くの人が参加してくれた。掲げた目的が達成されないと成功ではないという評価の仕方では、おもしろいものは生まれてこない。アイデアがたくさん出て、それが行動に変わるということでよいのではないか。報酬がなくても楽しさがあると人は動く。楽しいを真ん中に据えてデザインすることが重要なことだと考えている。

委員

私は社会的養護施設の現場におり、こどもの意見聴取に力を入れている。そこで大人への不平不満が出てくると、大変なことが起きているのではないかという話になりがちだが、こ

どもの思いや考えを吐き出させるという意味では、ネガティブな意見出しでもよいと思う。県のこども会議のようなものにも参加したが、大人がうまくコーディネートして工夫を加える必要がある。最初は、大人の真似事でよい。アドボケイトが来ても、こどもは容易に意見を言わない。アドボケイトには、まずはこどもの中に入り、一緒に遊ぶことからスタートして欲しいとお願いしている。委員の意見を聞いて、こどもの意見を聴取するには、もう一工夫、二工夫して楽しい要素を入れ込む必要があると思った。

委員

私には孫がおり既に高校生、大学生になっているが、彼らが小学生の時に、生駒市のジュニアリーダーに参加していた。自分たちでこども文化祭などのイベントの企画立案、運営、地域の地図づくりなどに携わり、とても楽しかったようである。お世話してくれる大人の方がうまく彼らの意見を引き出してくださったようだ。ジュニアリーダーの経験は高校生、大学生になった今でも生きていると思われる。コロナを機になくなった取組もあるかもしれないが、こどもにとってそのような場があればよいと思う。

委員

資料１の７ページ③ワークショップ　「みんなで考えよう　ご機嫌な居場所」の参加人数が５人で、非常に少ないことが気になっている。どのような周知、開催の仕方であれば参加者が増えるだろうか。学校での実施や、マニュアルを作成し、業務委託できるような仕組みがあってもよいかもしれない。

委員

こどもたちから意見を引き出すには力がいるし、そもそも関係性が大事である。行政をはじめ、こどもたちとの対話の経験がない大人が運営するのは難しいのではないか。場のデザインや、こどもから出た意見をフィードバックできる方や団体に運営を任せた方がよいと思う。ただ、行政が大阪や東京のイベンターに依頼してきたのもたくさん見てきたが、ヒアリングそのものが目的であってはならない。こどもたちの何を引き出し、それをどう活用するのか、それらをつなげていくような活動であることが重要である。既に生駒市のこどもとの関係性が築けている団体が集結するとどう作用するかには興味がある。

委員

こどもにアンケートをする際、通常は完成したアンケート用紙を配布するだけだと思うが、こどもにアンケートの作成段階から関わってもらう、また、こうした会議に参加してもらうとよいだろう。そうすると、こどもが主体的に取り組むことができ、他のこどもにも熱量をもって説明できるようになる。そして、説明を受けた側のこどももどんどん意見を言い始める。プロセスから関わることがこどもの意見を引き出すコツだと思う。

③　第４章　施策の展開　基本目標２　こどもが健やかに育つまち

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。また、取組に対するアイデアがあればお願いしたい。

委員

施策４と施策５に関連するが、全ての世代が無理なく日常的に集える場が必要なのではないか。たとえば、高齢者施設に併設されたカフェに赤ちゃん連れの母親や宿題をする小学生が集うといった空間があればよい。10 月 27 日（日）に開催された生駒市の体育館の無料開放イベントに初めて子連れで参加したが、自然と高齢者と交流ができた。そうした遊び場の体験を多くの世代にしてほしい。また、こどもが思いっきり遊べる場所に、移動図書館やドリンクの移動販売があり、こどもを見守る大人もリラックスできるような空間があればよいと思う。

委員

施策７について、「とことこ相談」は公立の園のみが対象である。民間の保育所、こども園に対しては、令和６年度より臨床心理士、公認心理師による巡回相談が実施されているので、主な事業に追加いただければと思う。

委員

最近、奈良市子どもセンターがリニューアルされた。遊び場が併設されており、発達に関する相談もできるなど、こどもに関する複数の機能が充実した施設である。生駒市も参考にされてはいかがか。民間では専門的知識を持つ方に来ていただける機会が少ないので、公立・私立関係なく、そうした機会の充実をお願いしたい。

「たけまるノート」は活用が広がっていないのが実情である。未就学～高校生まで書くような仕立てになっており、高校生までかかるのか、とその年数の重みが保護者の心の負担になる。こどもや保護者の心情に沿ったものができればよい。

委員

こどもや保護者の心情に沿うということは大変重要である。施策６では相談支援体制の取組が挙げられているが、相談ダイヤルがあっても、電話できないこどももいる。相談窓口も重要だが、むしろ信頼できる相手に自分の心の苦しさを吐露できるような、そんな偶然をデザインすべきである。私の団体では、ぼろぼろの古民家を皆でワイワイ言いながらリフォームすることを目的とした活動をしつつ、休憩時に家庭のことなどを話すきっかけを作っている。大人が集まってワイワイしている場所は自然とこどもが安心できる居場所になる。心のケアをするという目的を明確にして、悩みを打ち明ける環境を用意することも大事だが、敢えて目的を曖昧にすることも重要である。心の苦しみは信頼できる人に話すことで半分程度はケアされる。委員の意見にあったように、高齢者がスポーツを行う場の近くにこどもの遊び場があることで多世代交流という偶然が起きる。このような取組の評価は数値化しづらいが、評価の仕組みも合わせて考えていく必要があるのではないか。

副会長

教育現場の役割は大きい。こどもたちも教員にだから言えること、言えないことがある。日々忙殺されている教員にもう少し余裕があれば、こどもの心のケアにつながるのではないか。小さい頃に大人に本心を聞いてもらえてよかったという経験があることが大事である。教育現場と行政と民間が連携する必要がある。

施策７のこどもの発達支援について、５歳児健診があればよいという声を聞くので、ご検討いただきたい。

委員
既に多くの事業が実施されている中で新たな事業は必要だろうか。今ある施策をうまく使い、連携していくことが重要なのではないか。行政には民間の取組の周知に力を入れていただきたい。

委員
放課後等デイサービス事業を 12 年前から実施している。設立当初よりは学校とも連携が進んだが、もう少し関係性を深められればと思っている。学校の教員は本当に大変だと思う。我々が 12 年の活動から得た発達障がいをはじめ様々な知見を学校に生かせられないか。もう一歩踏み込んだ関係性を学校と築けると、教員にとってもこどもたちにとっても学びが深まると思う。

委員
不登校や発達障がい支援を考える際に、学校に行けない背景やこどもの特性を理解しながら進めていく必要がある。本校には校内教育支援センター「iR∞M(アイルーム)」を設置し、10 人近くが登録しているが、担当の教員が変わったことで、アイルームに通えなくなったこどももいる。教員とこどもの関係性は非常に重要だと思う。
今年度就学指導をしている保護者には「たけまるノート」を持参いただくよう伝え、コーディネーターと連携して進めている。学校だけでなく、放課後等デイサービスも含めた各団体と連携し、こどもをしっかり見ていく必要があると思う。

委員
地域コーディネーターという立場から学校の教員とも関わっているが、教員との相性で学校に通えていないこどももいるという話を聞く。教員の仕事量は多く、教員自身の心のケア、息抜きの場も必要と感じている。
私は、親子参加型イベントふれあいハートフェスタを実施している。イベントの告知については、今年から教員の働き方改革の観点から『すぐーる』での配信となり、参加者がどれくらい集まるか未知数である。できるだけ参加者のニーズに応えたいので、行政と一緒に考えながら進めたい。
放課後子ども教室も運営しているが、指導者の高齢化が進んでいるものの、最近は大学生も参加してくれており、大学生に悩みを打ち明けているこどももいる。このような斜めの関係性は重要だと思う。

委員
先頃策定された、生駒市の教育大綱は素晴らしいと思う。新しい教育がまさに始まらんとしていると希望の光を見た。教育大綱とこども計画の連動に注目している。

④　第４章　施策の展開　基本目標３　若者が望むライフデザインを実現できるまち

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。また、取組に対するアイデアがあればお願いしたい。

委員

若者の社会参加・就労についての取組が挙げられているが、大人の職業体験があるとおもしろいと思った。アルバイトであれば指導されるが、アルバイトではなく体験という立場であれば、新たな発見があるように思う。

⑤　第４章　施策の展開　基本目標４　安心して子育てができるまち

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。また、取組に対するアイデアがあればお願いしたい。

委員

施策 11 の休日保育について、保育士不足がある中でこれ以上保育現場に負担を強いて問題ないだろうか。

委員

休日保育は、現在はな保育園で実施されている。こどもの人数に関わらず保育士２名を配置する必要があるので、現場負担はあると聞いている。最近は、休日保育よりも、病児保育、病後児保育のニーズに対応する場所が増えている印象である。当園では一時預かりをしているが利用者は少ない。利用料金が 1 時間 250～400 円と高いことも要因だと思うので、料金を下げることも考えられる。現状、市内では料金はどこも同じだが、預かり時間は園によって異なるようだ。

委員

幼稚園でも預かり保育を実施しているが、料金は 1 時間 200 円で、この 20 年近く変えていない。補助が潤沢にあれば料金を下げてもよいが、こどもの命を預かる、しかも多大な責任を伴う現場で更に安い値段で請け負う必要があるか疑問に思う。処遇改善が叫ばれる中、料金を安くするとますます処遇改善は叶わなくなるのではないか。こどもの支援はもちろん大事だが、その分働き手への負担が増していることはご理解いただきたい。

⑥　第４章　施策の展開　基本目標５　地域でこども･若者・子育て家庭を応援するまち

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

事務局の説明について、意見や質問はあるか。また、取組に対するアイデアがあればお願いしたい。

委員

施策 17　地域でこどもを大切にする文化の醸成について、現在の活動を始めた際に、取組を「文化」にしたいという思いがあった。以来、地域のこどもたちを大人が見守っていくまち、「文化」を作るにはどうすればよいかをずっと考えている。当団体だけが声を上げても意味がない。こういった取組を、市をあげて進めているとなれば、関心のなかった層の意識も変わるだろう。当事者となる大人をどんどん増やしていくことが「文化」だと思う。今後、市と一緒になって進めているということがうまく市民に伝わればよい。

委員

こどもに触れる機会創出事業を、中高生のボランティア機会とすることは充分可能だと思う。中学生の家庭科の教科書の単元に乳幼児とのふれあい体験があるので、授業の一環とするなど、うまく活用すればよいと思う。また、保幼小接続事業の取組の中で、本校にも５歳児が何度か遊びに来てくれており、よい関係性が生まれている。

委員

コロナ前に生駒中学校の家庭科の教員の提案で、生徒と白百合幼稚園児との交流機会があった。生徒にとっても園児にとっても素晴らしい経験になったと思う。近所なので、今後何等かのつながりが出来ればよい。

施策 15　こどもの安全・安心な環境の整備についての意見だが、海外ではスクールバス優先で、乗降時は後続車が待ってくれる。一方、日本では、スクールバスについて苦情が寄せられ、文化の違いを感じる。

委員

乳幼児と小学生への支援に比べ、中高生に当たる思春期の若者への支援が薄いように思う。思春期は心が不安定なので、本来もっと目をかけてもよいと思う。思春期の若者をサポートする取組を何か地域でできないか。きれいごとではなく、理性的ではない危険な大人もいる。周囲に信頼できる大人や仲間がいないと、甘い誘いに乗ってしまう危険性があるので検討いただきたい。

委員

子育て支援グループ「かるがもの会」では毎年サマーイベントを実施しているが、今年初めて高校生がボランティアとして参加してくれた。中高生が子育て支援グループにボランティアとして参加するということを授業の一環でできればよいのではないか。

⑦　４章　施策の展開　全体

会長

それでは、４章全体に関して、ご意見があればお願いする。

委員

委員の意見にあったように新しいものを生み出すより、今あるものを大事にすべきだと思う。そのためには、ここにいる委員同士の連携も大事である。悩みや困りごとがある際に、誰に相談したらよいかが一目瞭然で分かる市内関係者の相関図のようなものがあるとよいのではないか。予算を使うのも、見えにくいものに丁寧に使うとよいと思う。「視察」というと堅苦しいが、お互いがお互いの場所に遊びにいく感覚で視察ができるとよい。

目的を明確にして行うものと、目的を別にして偶然のシチュエーションをデザインするものを明確にすべきである。後者は評価が難しいので、評価指標に工夫が必要である。定量的に測れないものの成果が分かるということが重要だと思う。

会長

評価の仕方については、改めて検討する必要があると思う。

委員

第１章の４.計画の対象について、「子育て当事者」は保護者だけでなく、子育てに関与する人間も含むということでよいか。そうであれば、「子育て当事者及び地域の大人一人一人」などと追記してもよいのではないか。

これだけの事業を進めるに当たっては、人材の確保、質の担保が絶対条件になると思う。そのような視点も文言として入れ込む必要があるのではないか。

⑧　第５章　第３期生駒市子ども・子育て支援事業計画
　　第６章　計画の推進

（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）

会長

ただいまの事務局の説明の他、計画全体について、意見や質問があればお願いしたい。

委員

92 ページ、第５章（１）教育・保育の提供の事業の「放課後児童クラブ」が「学童」であることがわかるように表記した方が分かりやすくてよいと思う。

会長

いただいたさまざまな意見、アイデアを踏まえ、事務局で検討のうえ計画に反映いただきたい。修正内容は私の方で確認の上、次のパブリックコメントの手続きに進む。私に一任いただいてよいか。

～異議なし～

(3)　生駒市こども計画策定に係るパブリックコメントの実施について
（事務局より説明）

（委員からの意見・質問）
会長
　事務局の説明について、意見や質問はあるか。

委員
　小学４年生にこの計画の内容を理解し、意見を出してもらうことは難しいのではないか。先程の意見と重なるが、作成の過程から関わらないと本当の意見は引き出しづらいと思う。

委員
　こどもの意見を引き出すには、まずは、生駒市で活動している団体や学校の教員など、こどもと実際に関わっている大人が意見を擦り合わせて、協働していかないと、難しいのではないか。こどもの居場所をはじめ、こどもの取組は全国一律ではなく、地域性を踏まえて実施していくことが重要である。

会長
　本件、どの自治体も手探りで進めている状況である。説明いただいた内容を検討の上、パブリックコメントを実施いただき、次の会議で結果を報告いただきたい。

(4)　その他
（事務局より連絡）

４．閉会
（閉会）